

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成29年度研究開発実施報告書

「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

研究開発領域

「高齢者見守りコーディネータ育成による地域見守り活
動の有効化」

研究代表者氏名 村井 祐一
(田園調布学園大学人間福祉学部、教授)

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2 - 1. 研究開発目標	2
2 - 2. 中間達成目標	3
2 - 3. 実施内容・結果	4
2 - 4. 会議等の活動	15
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	15
4. 研究開発実施体制	16
5. 研究開発実施者	17
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	19
6 - 1. シンポジウム等	19
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	19
6 - 3. 論文発表	19
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	19
6 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等	20
6 - 6. 知財出願	20

1. 研究開発プロジェクト名

高齢者見守りコーディネータ育成による地域見守り活動の有効化

2. 研究開発実施の具体的内容

2 - 1. 研究開発目標

本プロジェクトが目指すのは、公的機関と地域住民が連携して地域のセーフティネットとして機能する地域見守り活動のモデルを確立するとともに、そのモデルに基づいた地域見守り活動を各地域に適した形で立ち上げ、育み、定着させる高齢者見守りコーディネータの育成ならびにその活動内容を形式知化することである。

- 1) 地域見守り活動の仕掛け・立ち上げ～育み～継続・定着をリードする高齢者見守りコーディネータの活動モデルと育成プログラムを確立する。
 - ・ 地元コーディネータとスーパーバイザーとの協働モデルをたたき台として、地域社会において機能し得る高齢者見守りコーディネータの構成と役割のモデルを確立する。
 - ・ 地域見守り活動の仕掛け・準備から立ち上げ、運用、継続の各段階でのコーディネータの役割と活動内容、手順を具体的にまとめたコーディネータマニュアルを作成する。
 - ・ 高齢者見守りコーディネータを育成するためのカリキュラム、フィールド実習手法等をまとめる。
 - ・ 本プロジェクトを通じ、これらの知見・ノウハウを修得した第1期コーディネータ10名（スーパーバイザー5名、協力地域における地元コーディネータ5名）を育成する。

- 2) 地域の状況、環境に即して有効に機能する地域見守り活動モデルを確立する。

従来の地域見守り活動では意識されていなかった要素や、個々の担当者の「暗黙知」により実践されてきた以下の要素を「形式知」化し、地域見守り活動を住民が確実に実践できるようにする。

 - ・ インフォーマルな社会資源をも把握する住民参加型地域アセスメントのモデル手順をまとめる。
 - ・ 対象者や地域の特性を考慮した見守り調整手法（見守りアセスメント）のモデル手順をまとめる。
 - ・ 優れた見守りスキルを収集・集約した見守りレベルアップツールを開発する。
 - ・ 地域とのつながりが希薄な人への効果的なアプローチ手法・手順モデルをまとめる。

- 3) 地域見守り活動を効果的にバックアップする政策基盤モデルを示す。

地域見守り活動の裏付けとなる具体的な施策と高齢者（保健）福祉計画・介護保険事業計画や地域福祉計画等への組み込み方を整理して示す。

 - ・ 見守り活動における個人情報の提供や取扱いルールモデルをまとめる。
 - ・ 地域見守り活動の有効性・持続性を確保するための一連の施策モデルをまとめる。

- ・ 高齢者（保健）福祉計画・介護保険事業計画や地域福祉計画等への地域見守り活動とその支援施策の組み込みのモデルを示す。

4) 地域見守り活動の各関係者を適切に支援する情報基盤モデルシステムを開発する。

地域見守り活動を支援する情報基盤となる、以下の要素を備えたモデルシステムを開発する。

- ・ スマートフォンやタブレット端末で簡便に利用でき、専門知識がない見守り担当者でも効果的な面談やリスク判定、見守りアセスメント等が可能となる見守り活動支援アプリケーション
- ・ 多様な見守り手段に対応した見守り情報の交換や、見守り活動実施に応じたポイント付与を行う見守り情報交換システムと、これらの情報を適切に蓄積・管理するクラウドシステム
- ・ 見守り情報交換システムには、災害時発生時等に見守り対象者の安否確認等を支援する緊急時モード（仮称）を実装する。

5) 地域見守り活動のアウトプット、アウトカムの評価指標を定め、取組効果を検証する。

地域見守り活動による直接の状況変化（例えば見守り対象者の活動量、コミュニケーション量の変化等）や地域コミュニティで得られる成果（例えば孤立・孤独死発生数の減少）を示す実用的な評価指標群を定め、最終的に本プロジェクトの地域トライアルで得られた効果の検証を行う。（※評価指標については評価する事項の見直しを含め総合的に再検討中。）

2 - 2. 中間達成目標

平成30年度末までに達成を目指す事柄は以下のとおり。

- ・ 地域見守り活動の先行事例（10地域程度）を詳細調査し、地域見守り活動のコーディネータに関するノウハウ、知見等を収集・整理したコーディネータマニュアルの素案をまとめる。
- ・ ベテラン見守り者100名の見守りスキルや地域見守り活動先行事例の成果を取り入れた訪問チェックシート、アセスメントシート類及びそれらを電子ツール化したアプリ（評価版）を開発する。
- ・ 地域との関わりが薄い人の地域見守り活動への参加を促す方策の素案をまとめる。
- ・ 複数の見守り手法に対応するよう拡張した情報基盤モデルシステムを開発する。
- ・ 協力地域で、多様な関係者を集めた検討会を立ち上げ、地域アセスメント、対象地域の選定、地域見守り活動プランニング等の地域トライアル準備を完了させる。
- ・ 検討成果を取り入れた第一期地域トライアルを3地域で実施しその評価結果をまとめる。
- ・ 地域見守り活動を有効化する施策や基準を整理した政策基盤モデルの素案をまとめる。
- ・ 第一期地域トライアルを通じ、高齢者見守りコーディネータの最初の育成を図る。

2 - 3. 実施内容・結果

(1) 実施内容

今年度の到達点①

(目標) 優れた高齢者見守りコーディネータの活動、特に地域見守り活動の立ち上げプロセスや地域アセスメント手法を形式知化したコーディネータマニュアル素案の作成

実施項目①-1: 優良見守り活動の現地調査

実施内容:

優良見守り活動の現地調査はアイデア・フロントが3事例(4か所)実施した。

- ・ 墨田区(墨田区役所、都立大学名誉教授 小林良二氏)
- ・ 中野区(中野区役所)
- ・ 北九州市(NPO法人抱樸)

これらのヒアリングでは、各地の見守り活動の内容、立ち上げ経緯、有効だったアクション、見守り活動定着のキーフaktorについてヒアリングし、関係資料を受領した。

なお、計画では東京近郊に対象地域を絞っていたが、北九州市のNPO法人抱樸を対象に加えた。NPO法人抱樸は、高齢者の住宅確保(賃貸住宅の契約)のための見守り活動を自治体、民間企業(家賃保証会社)と連携して行っている。これは本プロジェクトの当初スコープ外の見守り活動だが、今後、社会的ニーズが高まると予想されることからヒアリングの対象とした。

また、横浜市の見守り活動非継続地域の事例として、旭区のひかりが丘団地に関するヒアリングを行った。

実施項目①-2: コーディネータ活動の整理とマニュアル素案作成

実施内容:

下記に示す地域見守り活動のコーディネータに参考となる文献調査を行い、コーディネータマニュアルに必要な骨子の洗い出しを行った。

- ・ 東京都福祉保健局「高齢者等の見守りガイドブック(第3版)」
- ・ 京都府京都市「地域でともにすすめる『見守り活動』の手引き」
- ・ 北海道札幌市「高齢者見守り活動のヒント」
- ・ 福岡県福岡市「ひとり暮らし高齢者見守り活動」
- ・ 静岡県掛川市「地域で支える見守りネットワーク運営マニュアル」
- ・ 岐阜県岐阜市「見守り活動ポケットガイド」
- ・ 埼玉県ふじみ野市「見守り活動推進マニュアル」

なお、平成29年度に本格着手する予定であった現地調査で得た知見・資料のほか、研究代表がこれまでの地域見守り活動への関わりで得た知見や前述した各地の見守りコーディネータ資料の整理・分析結果より、高齢者見守りコーディネータが果たすべき役割や活動の内容・ノウハウ等を実践手順に沿ってまとめた「コーディネータマニュアル」の素案作成と、それに基づいて行われる外部専門家3名程度によるコーディネータマニュアル検討会については、平成30年度当初の実施にずれ込んだ。

今年度の到達点②

(目標) 優れた見守り者の見守りの視点やノウハウを反映した、見守り活動レベルアップツールの素案の作成

実施項目②-1: 見守り活動実施地域でのワークショップ、ヒアリングによる知見収集

実施内容：城郷小机地区の見守り活動参加者ワークショップを3月10日に実施した。

実施項目②-2：収集した知見・資料の分析とツール素案作成

実施内容：ツール素案の作成については、上記アクションからのインプットが遅れたため、アイデア・フロントにて以下の作業を実施した。

- ・ 各地で行われている見守り活動の資料サーベイ調査を行い、そこで用いられている記録帳票等の事例を収集。
- ・ 城郷小机宿根地区の見守り実施者が行っている定例会に参加し、そこでの報告・会話記録の内容を整理・分析（情報交換される話題の分類、見守りの着目点等の抽出）
- ・ 前述の先行事例ヒアリングの内容から、見守り対象者スクリーニングや見守り活動での着目点を整理

今年度の到達点③

（目標）川崎市麻生区における地域トライアルに向けた地域見守り検討会の立ち上げとトライアルの準備

実施項目③-1：地域見守り検討会の立ち上げ

実施内容：

本プロジェクトで新たに地域見守り活動に取り組む川崎市麻生区において、区の協力を得て地域見守り検討会（見守り活動が立ち上がった後は「地域見守り協議会」）を年度中に立ち上げる予定であったが、トライアル地域選定に向けて麻生区役所との協議を重ねる必要が生じ、トライアル地域の最終選定が遅れたため、検討会（協議会）は立ち上げられていない。

実施項目③-2：見守りアセスメントの初期プロセスの実践

実施内容：

適切な地域見守り活動をデザインするための初期ステップとして、地域アセスメントの材料となる各種の社会資源（地域資源）の情報収集を行った。

- ・ 11月24日に麻生区役所に対して、地区カルテ等、行政が保有する見守り活動に有用な情報（地域アセスメント情報）の提供協力依頼を行った。
- ・ 3月10日に横浜市小机城郷地区でのワークショップにて優れた見守り活動者の見守りスキル要素の抽出を行い、見守り活動者が必要とする地域情報（社会資源）等の洗い出しを行った。
- ・ 研究代表のこれまでの地域見守り活動への関わりで得た知見をもとに、地域アセスメント項目一覧（骨子）を作成した。

実施項目③-3：モデル地域の選定と各地域での調整

実施内容：

- ・ 見守りモデル地域の選定（2地区程度を想定）に向けた協力

前項の11月24日の麻生区役所との打ち合わせを皮切りに、モデル地域選定のための協議を重ねた。その結果、麻生区内で見守りモデル地域を二地区選定することが決定した。最初の地域は麻生区役所側による地区選定の提案があったため、麻生区役所に委託することとした。地区選定の選定条件として孤立孤独死の発生が多い地域なども検討されたが、統計データが存在しないため、要支援1、2の該当者が多い地域や区役所側で見守りニーズが高いと判断した地域などを基準に検討されることと

なった。また、第2モデル地域の選定に向けては平成30年5月14日に麻生区町連総会にて募集説明会を行うことが決定した。

今年度の到達点④

(目標) 地域見守り活動への参加呼びかけ・定着に関して工夫等を行なっている地域に対する調査を実施し、課題や方向性の検討を行う。

実施項目④-1：地域見守り事例における新規参加者獲得・定着の工夫の調査

実施内容：

- ・ 地域見守り活動の事例調査を行い、活発に地域見守り活動を実施している下記3箇所に具体的な実施策の特徴や担当者の工夫点などについてヒアリング調査を行なった。
 1. 多摩川芙蓉ハイツシニアクラブ
 2. 大山ママさんサポートセンター
 3. 城郷小机地区地域見守り隊

実施項目④-2：地域トライアル対象地域の特性把握、新住民状況の把握

実施内容：

- ・ トライアル地域の決定が遅れたため、着手できていない。

今年度の到達点⑤

(目標) 複数の見守り手法やツールに対応できる情報基盤モデルシステムの基礎部分を設計・開発する。

実施項目⑤-1：情報基盤モデルシステムの基本設計

実施内容：

見守り情報機器・システムに関する文献調査を行うとともに、優良見守り活動事例のヒアリング、宿根地区定例会の情報交換内容の分析等をもとに、想定する「見守り」の形、地域住民が果たす役割などを再検討し、目指すシステムの構成、機能の再設定を行った。

実施項目⑤-2：見守り活動参加者の意見を踏まえた見守り情報交換システムの改良

実施内容：

既に「いるかメール」を利用している宿根地区の見守り活動参加者からの意見を踏まえ、いるかメールの機能の拡張や操作性の改善を行った。その際、本プロジェクトで実現を目指すシステムの構成・機能との関係性を検討し、今後の開発内容を具体的に想定し齟齬をきたさない設計・開発を行った。

実施項目⑤-3：見守り側の意欲を維持することをねらいとした見守り情報の画面設計及び評価

実施内容：

城郷小机地区で行われている実際の見守り調査データを用いて、学生14名を被験者と

した1ヶ月に渡る見守りデータ確認実験を実施した。その結果に対するインタビュー調査を行い、発話データを質的分析法（修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ）を用いて分析した。

（2）成果

今年度の到達点①

（目標）優れた高齢者見守りコーディネータの活動、特に地域見守り活動の立ち上げプロセスや地域アセスメント手法を形式知化したコーディネートマニュアル素案の作成

実施項目①-1：優良見守り活動の現地調査

成果：

文献調査の結果、先行事例として、札幌市、東京都、滋賀県社協がそれぞれ作成したマニュアル類が参照に値するものと評価した。

墨田区と中野区のヒアリングでは、自治体が地域に整備した機関が見守りコーディネーターに相当する役割を担っていることやその活動内容について詳細にうかがうことができた。一方、これらの公的機関による見守り活動と地域の自治会等が行う見守り活動との連携については課題があり改善の余地があることがうかがえた。

NPO法人抱樸のヒアリングでは、住居を失った高齢者を支援し新しい住居への入居を促すことにより生活保護費の削減、税金のアップ等の効果が期待できることが説明された。同法人ではこれに関連して、路上生活者の住宅確保・社会復帰支援の費用対効果（社会的ROI）の検討を行っており、その資料を入手した。

また、横浜市旭区ひかりが丘団地については、住民による見守り活動がいったん定着したものの、参加者の高齢化により継続が困難となった事例であり、立ち上げ後の活動の展開・新規活動者獲得困難の事例であることが判明した。旭区とは今後とも随時情報交換することとした。

実施項目①-2：コーディネータ活動の整理とマニュアル素案作成

成果：

コーディネータマニュアルに必要な骨子の洗い出しにおいては、下記のマニュアル類が参照に値するものと評価し、これらに含まれる知見と研究代表者の知見を併せたものを基本構成としてマニュアル作成を進めることとした。

- ・東京都福祉保健局「高齢者等の見守りガイドブック（第3版）」
- ・京都府京都市「地域でともにすすめる『見守り活動』の手引き」
- ・北海道札幌市「高齢者見守り活動のヒント」
- ・福岡県福岡市「ひとり暮らし高齢者見守り活動」
- ・静岡県掛川市「地域で支える見守りネットワーク運営マニュアル」
- ・岐阜県岐阜市「見守り活動ポケットガイド」
- ・埼玉県ふじみ野市「見守り活動推進マニュアル」

具体的な目次案や構成については外部専門家からのアドバイスもいただきながら、作成を進めることとなった。

今年度の到達点②

（目標）優れた見守り者の見守りの視点やノウハウを反映した、見守り活動レベルアップツールの素案の作成

実施項目②-1：見守り活動実施地域でのワークショップ、ヒアリングによる知見収集

成果：

横浜市港北区域郷小机地区の見守り活動実施者の方々に4つのテーマ（1.見守りが必要な人の見つけ方、2.見守る相手との接し方・声のかけ方、見守りを受け入れてくれない人への対処、見守りのメンバーを増やす方策）というテーマでワークショップを行っていただき、それぞれのテーマに対して長年見守り活動を行っている視点から重要視している点や困難性を感じている点に関する知見を得た。

実施項目②-2：収集した知見・資料の分析とツール素案作成

成果：

文献調査および宿根地区定例会内容の分析を踏まえ、日常の見守り活動の記録・情報共有に用いる簡易報告シートのたたき台を作成した。

これとは別に、村井リーダーが知見として持つ、見守り活動における異変察知サインのリストアップを行った。今後、このサインリストの構造化、項目の絞り込みを進め、簡易報告シート案に反映する。

今年度の到達点③

（目標）川崎市麻生区における地域トライアルに向け、地域見守り検討会を立ち上げてトライアルの準備を進める。

実施項目③-1：地域見守り検討会の立ち上げ

成果：

本プロジェクトで新たに地域見守り活動に取り組む川崎市麻生区において、トライアル地域の最終選定が遅れたため、検討会（協議会）は立ち上げられていない。

実施項目③-2：見守りアセスメントの初期プロセスの実践

成果：

適切な地域見守り活動をデザインするための初期ステップとして、地域アセスメントの材料となる各種の社会資源（地域資源）の情報収集、具体的には優れた見守り活動者の見守りスキル要素の抽出を行った。その結果、優れた見守り活動者は見守る相手のわずかな変化（服装や話す内容、表情など）を見逃さず、指導的な対応を行わず、傾聴の姿勢に重きを置いていることが明らかとなった。また、見守り活動を継続している理由として、相手から感謝される気持ちなどにやりがい・楽しさを感じており、さらに町内会の役員としての義務感や他の人に頼まれたためといった理由なども見られた。

実施項目③-3：モデル地域の選定と各地域での調整

成果：

麻生区役所とトライアル地域選定後の地域見守り検討会メンバー構成について打ち合わせを行い、麻生区役所、村井PT、地域包括支援センター、区社会福祉協議会、モデル地域のまとめ役などをメンバーとすることにした。また、初回の検討会メンバーへの呼びかけは麻生区役所が行うことになった。

また、見守り活動の具体的な取組効果の検証・評価に関する協力においては、田園調布学園大学および麻生区役所の役割分担について協議を重ね、明確な役割分担とプロジェクトの達成目標や推進方法に関する相互理解を深めることができた。

今年度の到達点④

(目標) 地域見守り活動への参加呼びかけ・定着に関して工夫等を行なっている地域に対する調査を実施し、課題や方向性の検討を行う。

実施項目④－1：地域見守り事例における新規参加者獲得・定着の工夫の調査成果：

ヒアリング調査を行った3つの地域は地域コミュニティの元々の状況が異なっており、地域コミュニティの活動力の違いによって、見守り活動のあり方や参加呼びかけの仕方にも違いが生まれていることがわかった。これらの違いについて、仮説的なモデルの検討を行った。また、新規参加者獲得・定着には見守り活動団体の人間関係の良さや、団体と地域との関係の良さ（メンバーの人望や団体の表彰などでの周知度）が重要だということがわかった。以下に、仮説モデルの概要を示す。

① 地域活動メンバー3段階モデル

見守り活動に関わりのある人を、それぞれの関与度で3層に類型化したモデルである。コアメンバー・メンバー・プレメンバーの3段階で構成されている。参加者は3層のいずれかに位置するが、関わり方の変化に応じてその位置は上下するものと想定する。

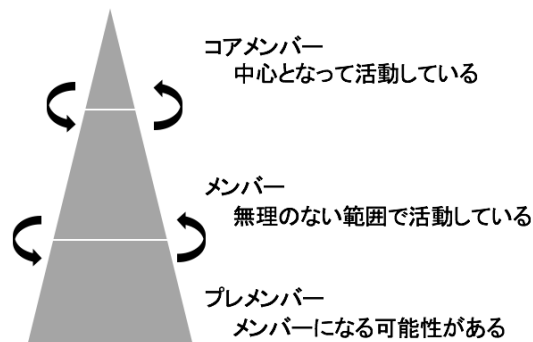


図2 地域活動メンバー3段階モデル

② 仮説モデルを用いた3地域の比較

地域活動メンバー3段階モデルを用いてインタビュー調査した3地域を比較した(図3)。見守り活動を始めるまでに密接な地域コミュニティがあるかないかで見守り活動のアプローチ方法が異なることが分かる。小机宿根町内会は成熟したコミュニティをベースにした取組である(地縁コミュニティ型)。一方、多摩川芙蓉ハイツと大山団地は地域コミュニティの歴史が団地の発展とともに始まったものであり、その時々でのコミュニティの成熟度に応じたアプローチをとっている(問題解決型)。

a) 多摩川芙蓉ハイツ

多摩川芙蓉ハイツのシニアクラブでは見守り活動を形成する準備として、まず太極拳や卓球などのクラブ活動を始めた。メンバーはクラブ活動で見かけた

協力してくれそうな人に、コアメンバーが声をかけ参加を促している。

b) 大山団地

大山団地は両隣の家の見守りを全戸にお願いしており、郵便受けに新聞がたまっているなどの異変がある場合は、大山自治会事務所に連絡することになっている。

活動団体が培った地域からの信頼によりなりたっている部分大きい。

c) 小机宿根町内会

小机宿根町内会は古くからの地域コミュニティがあるエリアで、住民同士が無意識的に近所の人の見守りができている土壌がある。また、町内役員を30～40代が担うという地域の習わしがあり、町内会活動で培った関係性をベースとして、見守り隊として約10名ほどのメンバーが活動している。

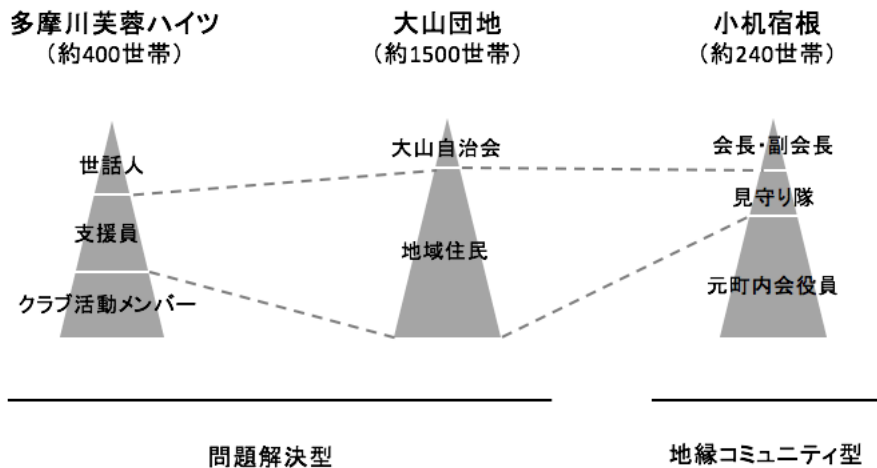


図3 仮説モデルによる3地域の比較

なお、インタビューのうち城郷小机地区では見守り隊の見守り活動を拒否する傾向のある高齢者の方の自宅を訪問させていただき、見守り隊の方とのコミュニケーションの実態についてフィールドワークを実施した。どれだけ高齢者の方に断れても、見守り隊の方は対象者の方を様々なアプローチで気にかけて続けたが、地域における関係が基盤にあることにより、こうした親身な対応が可能になっていることが理解できた。

③ 平成30年度に向けて

30年度のフィールドは地域コミュニティの成熟度は不明ではあるが、新興住宅地であると想像されることから、問題解決型のモデルを参考にする。

未協力住民（これまで地域の人との関わりが薄かったが、地域活動に参加するなど関わりを持つ可能性が高い人）をプレメンバーに取り込む施策や、メンバーがより積極的に活動したくなる施策を検討していく予定である。

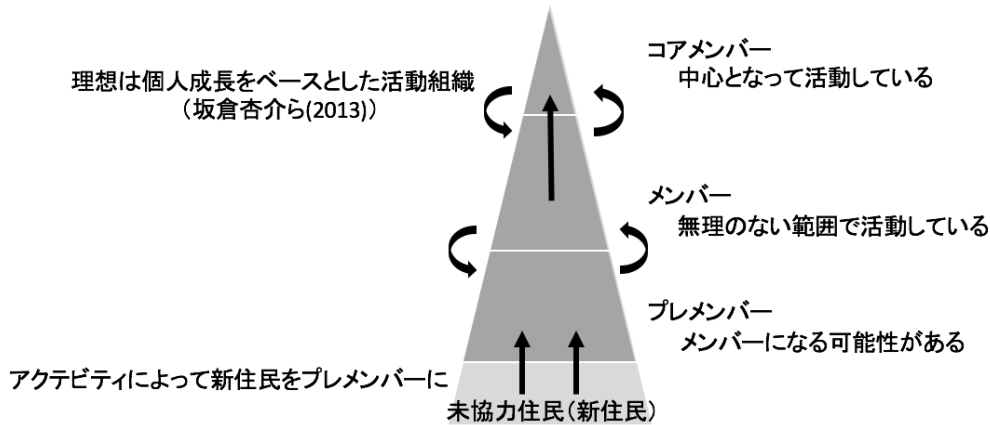


図4 今後の取組みのモデル案

現時点ではまだ事例が少ないが、様々な地域コミュニティで、見守り活動の実施を計画するための方法のアイデアとして図5のような、関連諸活動を連携させることで見守り活動を有効化する長期的な計画を立案できる方法を検討している。今後の活動の成果のまとめ方の一つとして、地域コミュニティ自身が見守り活動等を含めた地域活動の取り組み計画するツールについても検討することとした（図5）。

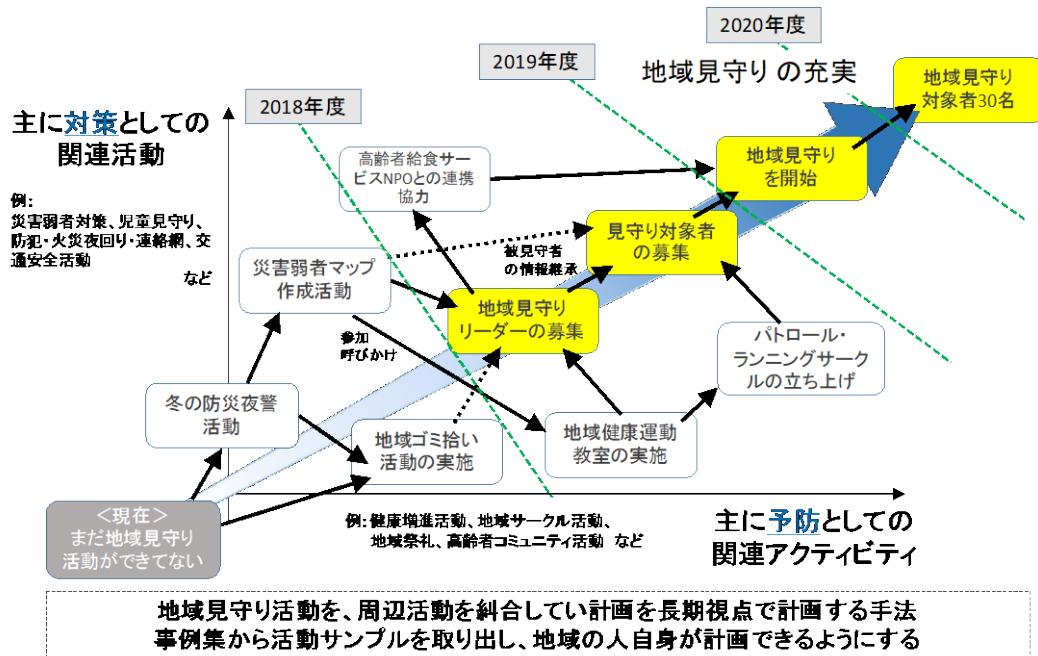


図5 地域コミュニティの成熟としての地域見守りの計画立案ツールのイメージ

今年度の到達点⑤

(目標) 複数の見守り手法やツールに対応できる情報基盤モデルシステムの基礎部分を設計・開発する。

実施項目⑤-1：情報基盤モデルシステムの基本設計

成果：

実用化されている各種見守り情報機器、システムやそれらを用いた見守り活動に関する文献調査を行ったが、我々が目指す住民主体の地域見守り活動で求められる情報基盤と提供されている機器・システムの機能の間には相当の乖離があると考えられた。一方、宿根地区の見守り定例会の発言内容分析から、ICTを用いた見守り活動を行っている場合でも、イベントや訪問等で面会した時の様子、道端で顔を合わせた時の様子等が重要な情報としてやりとりされている実態が明らかになった。

そこで、基本的な考え方を変更し、宿根地区で行われている見守り活動（訪問声掛けや施設・イベントでの観察等）の情報の適切な報告・共有を念頭に想定機能の見直しと基本検討を行い、下図のように、ICT機器の所持・利用が期待できない高齢者の見守りにも活用できる簡易報告システムとして今後の開発を進めることとした。また、このシステムは災害発生時の要支援高齢者安否確認・報告にも有用と考えられ、災害発生時に関係者に安否確認を促す機能等を「災害時モード」として付加する（開発は平成31年度を予定）。

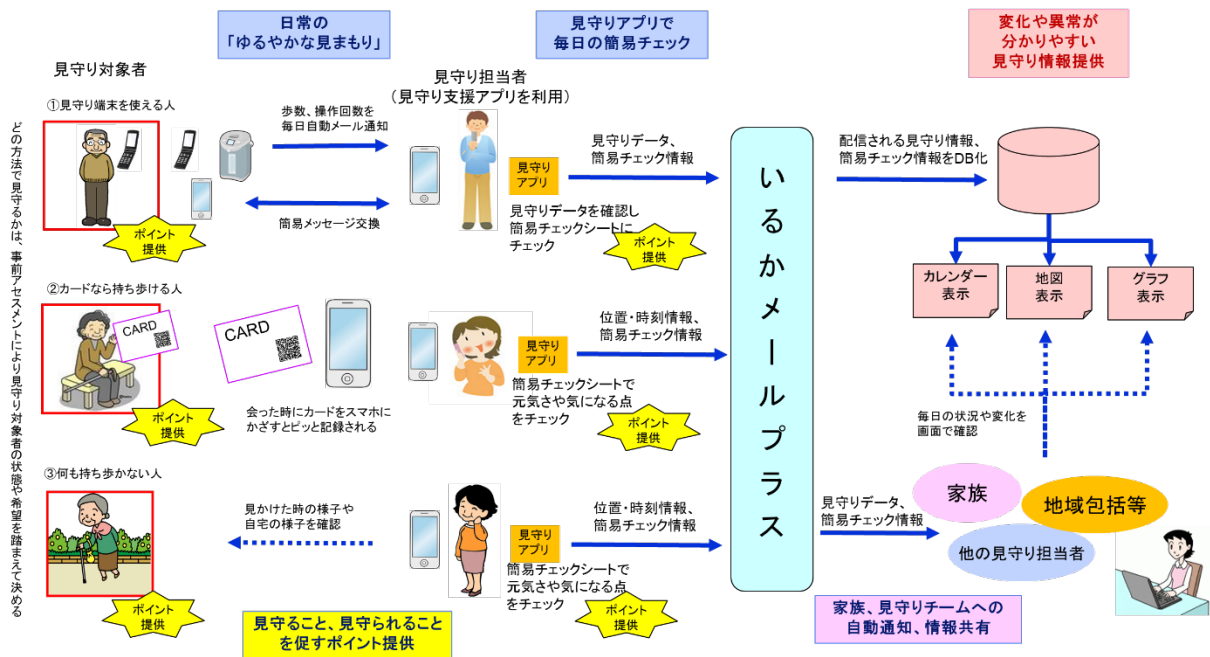


図6 想定する情報基盤モデルシステムの機能概要図

実施項目⑤-2：見守り活動参加者の意見を踏まえた見守り情報交換システムの改良

成果：

いるかメールを利用している宿根地区の見守り活動参加者からの意見を踏まえ、大手携帯電話各社が提供している見守り機能付携帯電話及び見守り機能付電気ポットからの見守り情報を扱えるよう、機能拡張を行った。さらに、これらの見守り端末からの

見守りメールを受信した人が、簡易に見守り対象者に関するコメントや見守り報告を関係者と交換できる機能、管理画面で簡易報告シートの項目を編集しカスタマイズできる機能を追加した。平成30年5月から、これらの機能を宿根地区の見守り活動に導入し試用評価を行う。

実施項目⑤-3：見守り側の意欲を維持することをねらいとした見守り情報の画面設計及び評価

成果：

前述した質的分析の結果、当該システムを用いて見守り活動を行う意欲の維持のためには、大きく2つの情報が必要であることがわかった。1つは、「見守り活動に対する責任感」であり、もう一つは「見守り対象者の生活を想像する手がかり」である。例えば責任感を高める仕組みとして、「今週は〇〇さんが責任担当です」のように、守りの责任意识が分散しないような工夫や、「今月一番素早く見守る頻度が高かったで賞」など、システムとして新たに盛り込むべきものもあるが、運用の工夫によって情報を加えることができると考えられる（下の図は、分析結果から得られた、見守り活動途中でも、意欲が向上する2つの心理的パスの模式図）。得られた結果を参考にしつつ、どこまでシステムで盛り込めるかについては検討中である。

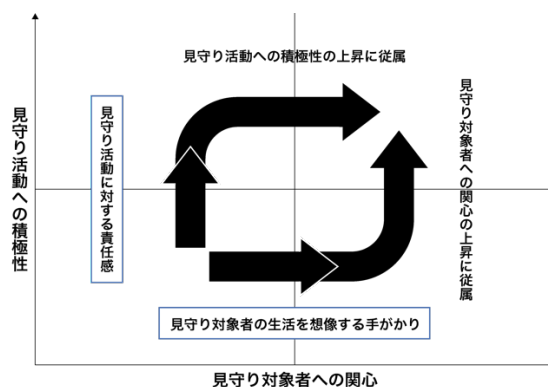


図7 長期的な見守り活動を維持するためのモチベーション向上のトリガーと向上過程

(3) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

- いくつかの実施事項に遅れはあるが、各実施項目のスケジュールに基づき既存データの整理と見守りに関する知見を得ることができた。
- 第2のモデル地域である、川崎市麻生区における見守り活動実施に向けて麻生区役所とモデル地域の選定や見守り協議会の運営ルールづくり等の調整に時間がかかり、見守りモデル地域の選定やキックオフミーティングの開催時期が予定より2～3ヶ月遅れている。要因としては自治体と想定以上に綿密な打ち合わせが必要であった点である。一方、これらの綿密な打ち合わせの中で、相互理解が深まり、自治体連携見守りモデル構築に必要となるプロジェクト上の知見を得ることができた。
- 見守りコーディネーション研究グループの研究員雇用の遅れによって、見守りコーディネータマニュアル骨子、見守り活動者マニュアル、見守りアセスメントシートなどの完成が遅れている。平成30年度より2名の研究員を雇用することができたため、順次遅れは改善すると見込まれる。

- ・見守り情報基盤の維持費について、既存の制度などに照らし合わせて考察した結果、現段階では介護保険制度での運用（総合事業）が目的性や持続性において適切ではないかと判断された。これはプロジェクト終了後の社会実装に必要な知見となる。
- ・すでに認識はされていたが、新聞配達、郵便、タクシー、ヤクルト、配食等の事業者型の見守りと、本プロジェクトの中心となる近助型見守りの接続については改めて最終課題として検討しておく必要があると考える。解決方法については、事業者型見守りについては自治体との包括的契約を締結している事が多いため、自治体をコーディネータとする事業者・近助見守り情報連携システムの構築を検討することになる。

(4) スケジュール

実施項目	平成29年度 (H29.10～ H30.3)	平成30年度 (H30.4～H31.3)	平成31年度 (H31.4～H32.3)	平成32年度 (H32.4～ H32.10)
			マイルストーン	
高齢者見守りコーディネータ活動のスキル調査とマニュアル化	→	→	→	
地域トライアルを通じたコーディネータ人材の育成		→	→	
人材育成プログラム及び導入支援ツールの開発				→
ベテラン見守り者のスキル調査とツール化	→	→		
見守り支援ツールのアプリ開発		→ (いるかメールアプリ)	→ (アセスメントサイトのアプリ化)	
地域住民の地域見守り活動への参加・定着方策検討	→	→	→	→
情報基盤モデルシステムの開発・拡張	→ (簡易報告機能等)	→ (QRコード対応)	→ (ポイント管理機能)	→ (災害時モード)
地域見守り活動のトライアル	→ (横浜市港北区での実践)	→	→ (横浜市港北区+川崎市麻生区)	→
地域見守り検討会の立ち上げ・運営	→	→	→	→
地域見守りの政策基盤モデルの検討		→	→	
効果指標の検討(追加)		→ (効果指標の検討)	→ (モデル地域での効果評価)	

※実践は当初予定、破線はH29年度の内容を反映した変更案

2 - 4. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2017/10/27	プロジェクト概要説明	麻生区役所	プロジェクト推進に関する事前説明及び必要事項の打ち合わせ
2017/11/1	宿根見守り活動定例会	城郷小机宿根エリア	宿根エリアで取り組むプロジェクトに関するスケジュール調整
2017/11/24	プロジェクト概要説明	麻生区役所	麻生区役所との協議第1回目、田園調布学園大学と麻生区役所の協定締結に向けた調整
2018/2/9	プロジェクトに関する情報提供の打ち合わせ	横浜市役所本庁	昨年度までの成果報告と今年度以降の取組の説明、行政・ケアプラザへの依頼事項の明確化
2018/2/16	麻生区との具体的な連携に関する打ち合わせ	麻生区役所	連携協定書の締結に向けた調整、行政情報の提供や2018年5月の自治会説明に向けた打ち合わせ
2018/3/10	町内別報告会	城郷小机地域ケアプラザ	年に一度行われる城郷小机地区における見守り活動の年次報告会
2018/3/10	優れた見守りスキル抽出WS	城郷小机地域ケアプラザ	城郷小机地域にて町会レベルで活躍する見守り活動者の視点やスキル抽出を行うワークショップ

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

横浜市港北区城郷小机地区の宿根地区において、見守り携帯電話やi-PoTと見守り情報基盤（「いるかメール」）を併用した見守り活動を行っている。

4. 研究開発実施体制

見守りコーディネーション研究グループ（村井 祐一）

田園調布学園大学人間福祉学部

アイデア・フロント株式会社

実施項目：優良見守り活動の現地調査

コーディネータ活動の整理とコーディネートマニュアル素案作成（未実施）

見守り活動実施地域でのワークショップ等による知見収集

収集した知見・資料の分析とツール素案作成（一部実施）

地域見守り検討会の立ち上げ（未実施）

地域アセスメントの初期プロセスの実施（未実施）

モデル地域の選定と各地域での調整（未実施）

サービスデザイン研究グループ（安藤 昌也）

千葉工業大学先進工学部

実施項目：地域見守り事例における新規参加者獲得・定着の工夫の調査

地域トライアル対象地域の特性把握、新住民状況の把握（未実施）

見守り側の意欲維持を狙いとした見守り情報の画面設計及び評価

情報基盤検討グループ（内田 斉）

アイデア・フロント株式会社

実施項目：見守り活動実施地域でのワークショップによる知見収集

収集した知見、資料の分析とツール素案作成（一部実施）

情報基盤モデルシステムの基本設計

見守り活動参加者の意見を踏まえた見守り情報交換システムの改良

5. 研究開発実施者

見守りコーディネーション研究グループ

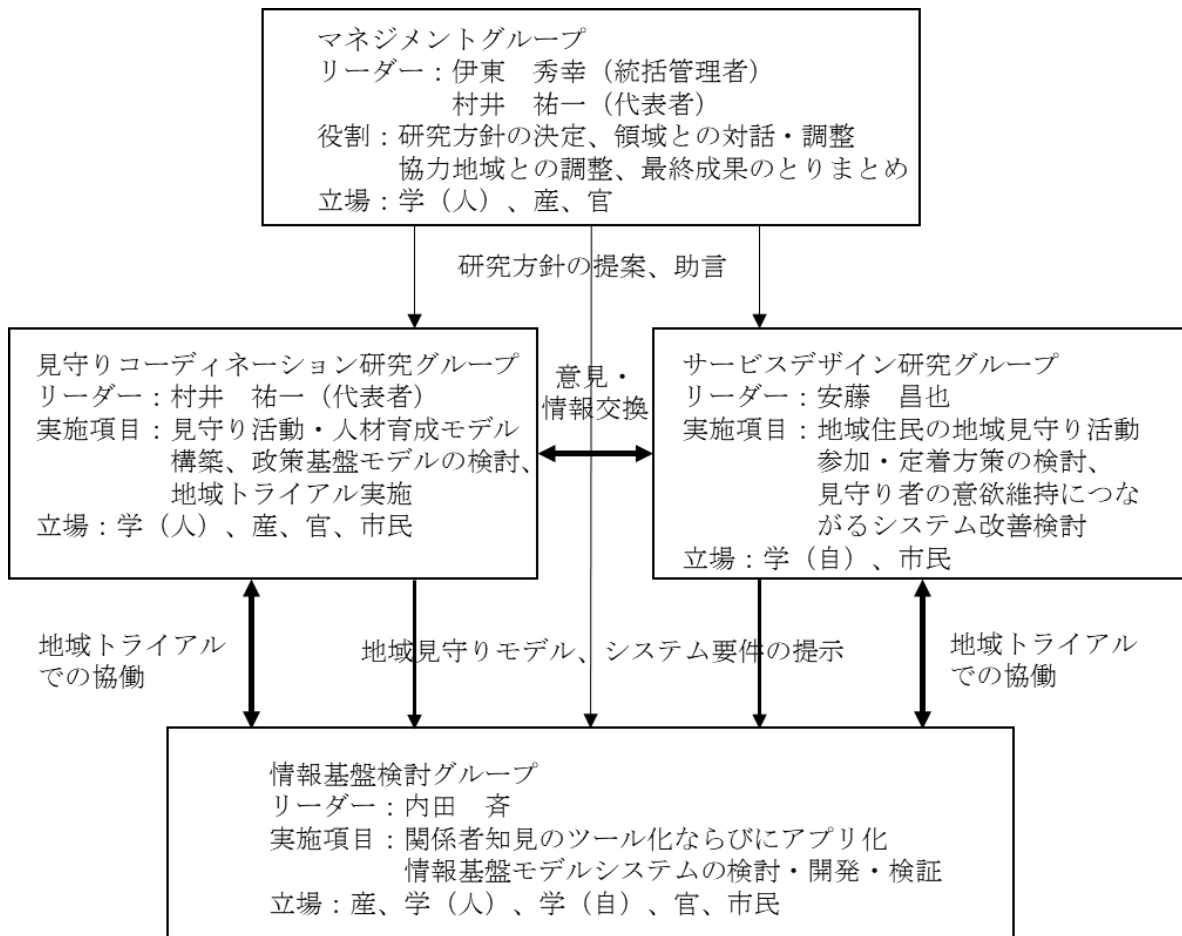
氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
伊東 秀幸	イトウ ヒデユキ	田園調布学園大学	人間福祉学部	教授（副学長）
村井 祐一	ムライ ユウイチ	田園調布学園大学	人間福祉学部	教授
青木 千帆子	アオキ チホコ	イデア・フロント(株)		研究員
日高 未央	ヒダカ ミオ	田園調布学園大学	経理・総務課	アルバイト

サービスデザイン研究グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
安藤 昌也	アンドウ マサヤ	千葉工業大学	先進工学部	教授
別府 拓也	ベップ タクヤ	千葉工業大学	付属研究所	研究員

情報基盤検討グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
内田 斉	ウチダ ヒトシ	イデア・フロント(株)		代表取締役
青木 千帆子	アオキ チホコ	イデア・フロント(株)		研究員
石崎 昌春	イシザキ マサハル	イデア・フロント(株)		研究員
竹本 統夫	タケモト ムネオ	イデア・フロント(株)		アルバイト



6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	場所	参加人数	概要

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

・

(2) ウェブメディアの開設・運営、

・

(3) 学会（7-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

・

6-3. 論文発表

(1) 査読付き（_____件）

●国内誌（_____件）

・

●国際誌（_____件）

・

(2) 査読なし（_____件）

・

6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

(1) 招待講演（国内会議_____件、国際会議_____件）

・

(2) 口頭発表（国内会議_____件、国際会議_____件）

・

(3) ポスター発表 (国内会議_____件、国際会議_____件)

.

6-5. 新聞報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 (_____件)

.

(2) 受賞 (_____件)

.

(3) その他 (_____件)

.

6-6. 知財出願

(1) 国内出願 (_____件)